

International Education Institute, Ltd.
Asahi-cho 1-2-13 Fukano Mansion 403, Kashiwa-shi
Chiba Pref, Japan 277-0852
Phone: 81-120-322-989
E-mail: company@pasocon-eikaiwa.com
Home Page: <http://www.pasocon-eikaiwa.com/>

株式会社 国際教育研究所
〒277-0852
千葉県柏市旭町1-2-13 深野マンション 403
フリーダイヤル 0120-322-989
E-mail: company@pasocon-eikaiwa.com
ホームページ: <http://www.pasocon-eikaiwa.com/>

2014年5月31日

外資系グローバル企業の方に「遠藤メソッド」の体験談を差し上げます：

グローバル人材への近道

私は、グローバル企業（外資系）でグローバルな役割をしている30代（男性）です。過去2年ほどの遠藤メソッドを通しての経験と結果を述べたいと思います。主に将来グローバル人材になることを目標とする中級から上級の英語力をお持ちの方の参考になれば幸いです。

私は大学まで英語の成績は悪くはなかったですが、日本での英語教育のみでしたので（海外に出たことはほぼありません）、実践の英語力はほとんどありませんでした。社会人になって5年目に米国の大学院（MBA）に2年間留学をしたものの、実践の英語力がなかったため、大変苦勞して入学から卒業までを過ごしました。渡米した時は、マクドナルドで注文する際に、店員の話す英語を聞き取ることもこちらの注文を伝えることすら出来ませんでした。2年間、苦勞したため相当上達しましたが、それでも今思い返すと遠藤メソッドでいう言語係数0.3-0.5くらいの状態ではなかったかと思います。

その後、数年間あまり英語を使う仕事をしなかったため、英語力は随分落ちて0.3を切るくらいになっていたかもしれません。現在のグローバル企業に入社し、再び海外の人とやり取りをするようになり、英語力のなさを痛感するようになりました。その後、偶然に6か月ほどのプロジェクトで米国にて過ごす機会を得ました。日本人のほとんどいないところだったので、再び英語力が上がり、おそらく言語係数0.5を超えるくらい（自己判断ですが）になったところで、帰国しました。帰国して3-4か月ほどたった時に、遠藤社長と出会い遠藤メソッドを始めました。

遠藤メソッドは、まずは、発音の講座を行い（2か月程度）、NDE（New Dynamic English）のセクション7から開始し、8までやった後（3か月程度）、English for Successに移り、丁度、現在1-20までやり終えたところです（1年半程度）。

私からみた遠藤メソッドの説明を少し行います。遠藤メソッドでは、まず発音講座で発音の矯正を行ってから実際の英語の学習に入りますが、日本で英語を学んだ人が最も不得意とする発音を最初に矯正することで、発音法を学ぶだけでなく、特に本場の英語の音に慣れていない人は、結果的にヒアリング能力も「矯正」することが可能になると思います。理由は、多くの日本人は間違った英語の発音の英語に慣れてしまっているため、本当の発音が耳に入っていないためです。

次に進んだNDE（New Dynamic English）という教材はModule 1-8まであり、事前の英語力テストで実力を測定した結果、私は自分のレベルに合わせてModule 1-6をSkipし、Module 7から開始しました。（最短の時間で英語を習得するという遠藤社長の指導によるものです。）NDEの後に進んだEnglish For Successという教材は、Unit 1-20まであり、アメリカの高等学校での教科を英語で教えている教材で、日本人が既に日本語で習ったものではありませんが、英語ですので非常に教養を高めるうえで有効な教材だと感じています。

この2年くらいは仕事の方でも、平日ほぼ毎日1日2-4時間程度英語で仕事をする機会があり、合わせて遠藤メソッドを1日1時間程度行ってきました。その結果、現在では、英語のミーティングで（1週間に20回以上、ミーティングの9割は外国人のみ）、私が半分以上のミーティングを主催者としてリードして、ほとんど参加者のいうことを理解できないことがないだけでなく、私が話す英語もほとんど聞き返されることがない状態までになっています。ミーティング参加者および私の上司（米国人）からもこの1年ほどは大変高い評価を得ています。

過去から非常に多くの時間を使って英語を勉強してきたにもかかわらず、この2年の上達は目覚ましく、遠藤メソッドによる効果が大きくあったのではないかと感じています。基本的なことを何度も聞き、細かいところまでチェックをして、覚えるようになるまで何度も話すということは素振りのような基本的な動作です。遠藤社長の言う英語とは「学問」ではなく、「芸事」であり、日々の練習により反射運動（英会話では、耳、鼓膜、口、下、脳自体等）を鍛えるのが上達の近道というのは非常に理にかなった合理的かつ最短の学習

法ではないかと考えています。

私の場合は、それを実際に使って、仕事を行うチャンスが多くあったので、学習効果がさらに加速されたのだと思います。もっと早く遠藤メソッドを始めていたら、過去にこれほど英語に苦勞することはなかったのではないかと少し悔やんでいます。（大変多くのお金もつぎ込んで来ました。）

もちろん、英語ができれば、仕事ができるわけではないですが、グローバルな場で実際に仕事をしていると、言っていることが伝わらない人はまず信用されません。私のようにグローバルな場で仕事をしている人は、実は日本の外資系でもあまり多くありません（ほとんどの外資系は日本市場に販売することを主目的としているので、海外とのやりとりがほとんどない人が大多数です）。仮に日本人の中で英語ができる人でもほとんどグローバルの舞台では通用していないのが実態です。結果として、コミュニケーションと仕事の内容の両面で私に対する信用が高くなったため、多くの重要な仕事が回って来ることになり、グローバルのかなりの上層部の方から目を掛けられるようになっていきます。日本には大変優秀な人がたくさんいますが、ほとんど海外からは「見えて」いません。理由は優秀なことが伝わっていないからです。伝わらないものは誰も信用しません。グローバル人材になって海外から「見える」ようになるためにも英語力の研鑽は、上級者になってもやりすぎて損はありません。

過去にかなりの時間をかけてもそれほど英語が上達しなかった私は、幼いころに英語圏で暮らしていない人間が、ネイティブスピーカーと十分にやり取りできることはないと思っていましたが、現在はトレーニング方法でかなりのレベルまで上達できると考えています。費用対効果に優れ、どこでもできる遠藤メソッドを特に英語の中上級者でグローバル人材を目指す方は、是非行われることをお勧めします。